

やばけい遊覧 どう活性化?

「SNS使ってPR」

「豊後森機関庫の駅弁」

大学生がアイデア提案



地域の新たなブランド化のアイデアなどを提案する大学生＝玖珠町

【玖珠・中津】玖珠町

と中津市にまたがる日本遺産「やばけい遊覧」をテーマに、県内の大学生が地域の新たなブランド化や情報発信策を提案する発表会が2月28日、玖珠町塚脇の玖珠自治会館であった。両市町を巡って研究をした学生から「特産品の認知度が低い」「交流サイト（SNS）を活用してPRをするべき」といった意見が出た。

県内の産官学でつくる「おおいた地域連携プラットフォーム」が主催する協働授業の一環。大分大と日本文理大の1、2年生14人が参加し、2月18、19の両日、玖珠町と中津市耶馬溪町の観光名所などを視察した。その後、4チームに分

かれて議論し、地域活性化のアイデアを出し合った。

発表会には両市町の自治体関係者約10人が出席。オンラインでの配信もあった。学生は若者の目線から、地域のマスコットキャラクターを使ったイベント開催や、玖珠町のシンボル・豊後森機関庫をモチーフにした駅弁作りなどを提案した。

大分大経済学部2年の黒田光貴さん(20)は「実際に体験することで、地域の魅力や課題を整理することができた。自分たちが勉強になったし、意見が町おこしの役に立てばうれしい」と話した。

日本遺産は地域活性化を目的に、文化庁が全国各地の文化財や伝統芸能をまとめて認定する制度。やばけい遊覧は2017年に認められた。中津、玖珠の両城下町に挟まれた耶馬溪一帯を巨大な山水絵巻に見立てたストーリー。羅漢寺や慈恩の滝など27の文化財で構成されている。(姫野直也)